

文学研究科 書道学専攻 博士課程後期課程

教育研究上の目的

文学研究科書道学専攻博士課程後期課程は、漢字文化・仮名文化に立脚した書の本質をグローバルな視点から解明し考究する「書道学」の理念に基づき、中国書学、日本書学、書跡文化財学のトップリーダーの養成を目的とします。

学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）

文学研究科書道学専攻博士課程後期課程は、建学の精神に基づく教育目標に定める人材を育成するため、所定の期間在学し、所定の単位を修得し、専門分野に関する次のような高度な能力を身につけ、博士論文が審査のうえ合格と認められた学生に博士（書道学）の学位を授与する。

1.

- (1) 「中国書学」「日本書学」「書跡文化財学」のいずれかの分野における専門的職業人としての高度な知識を有し、中国および日本の古典を主とした書をめぐる文化を総合的にとらえ、異文化交流におけるリーダーシップを取ることができる。
- (2) 古典中国語（漢文）および古文の高度な読解力を有し、的確に言語を使用することができる。

2.

- (1) 文献の高度な読解力と作品の精細な観察力をもとに高い分析能力を持ち、論理的に考え、表現することができる。
- (2) より高度で専門的な知識を有し、書の文化を総合的にとらえ、社会人としての優れた判断力と表現力によって円滑に研究を遂行することができる。

3.

- (1) 「中国書学」「日本書学」「書跡文化財学」のいずれかに関わるテーマに沿って主体的に専門性を深め、社会の要請に応じて指導的な役割を担うことができる。
- (2) 書をめぐる東洋文化に立脚した東西文化の交流における中心的な役割を担うことができる。

教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）

文学研究科書道学専攻博士課程後期課程は、修了認定・学位授与方針に掲げる能力を修得させるために、以下のような内容、方法、評価の方針に基づき、教育課程を編成する。

1. 教育内容

「中国書学」「日本書学」「書跡文化財学」の3領域から専門分野を選択し、その分野の演習科目を必修として3年間にわたって履修し、関連の深い特殊研究科目を選択する。

- (1) より高度な専門的知識を修得し広い視野に立った研究ができるように、専攻科目と関連科目を設置している。

- (2) 専攻科目は、研究指導教員による演習科目と講義科目として各分野の専門的な特殊研究科目を設置している。
- (3) 研究能力を養成するために演習科目を設置し、博士論文を主とした研究論文の指導および研究遂行の基礎となる文献の読解を行う。また、学界に通用する緻密かつ独創性のある博士論文の作成を目指す。

2. 教育方法

自己評価と他者評価を踏まえた、学びの振り返りを促していく。

3. 評価方法

学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）で掲げられた能力の達成状況を、書道学専攻における単位取得状況、研究指導受講状況、学位論文等の結果によって評価するものとする。

入学者受入れの方針（アドミッション・ポリシー）

文学研究科書道学専攻博士課程後期課程は、教育研究上の目的、ディプロマ・ポリシー（学位授与方針）、カリキュラム・ポリシー（教育課程の編成・実施方針）に基づき、次のような要件を備えた受験生を各種選抜試験によって受け入れる。

1.

- (1) 書学・書跡文化財学について、博士課程前期課程（修士課程）などにおいて修得した知識や技能を持ち、博士論文を執筆するために十分な学力がある。

2.

- (1) 学際的な視野をもって書をめぐる文化の諸問題を究明するため、自らの課題や社会的要請を意識しながら創造的に研究に取り組むことができる。
- (2) 現代社会における書の文化的役割や機能を深く理解するとともに、社会人として優れた表現力と判断力を持ち、国際人として積極的に活躍することができる。

3.

- (1) 「中国書学」「日本書学」「書跡文化財学」のいずれかに関わるテーマに沿って専門的知識と研究方法を身につけ、多様な場面において指導的な役割を担う人材となることを目指している。

書道学専攻博士課程後期課程 AP と入試の関連表

入試方式	選抜方法	アドミッション・ポリシー		
		AP1	AP2	AP3
後期一般方式	筆記試験 (外国語、専門)	●	●	
	面接試験		●	●
後期社会人方式	筆記試験 (専門)	●	●	
	面接試験		●	●
後期留学生方式	筆記試験 (外国語、専門)	●	●	
	面接試験		●	●